

平成29年7月25日、政策秘書課職員との話です。

## 人は思い通りにならない

今から30年ほど前、私が老人ホームを始めた頃、老人ホームを抜け出し、徘徊を繰り返す認知症の方がいらっしました。

老人ホームの職員は、探し回ることに疲れ果て、私に「どうかしてください」と詰め寄ってきました。そのため、私はどこへ行くにも、その方を助手席に乗せ、一緒に行動をするようにしていました。いつも一緒にいたので、私はその方に愚痴や悩みを話していましたが、認知症の方なので、話の内容を忘れてくれました。その頃の私は、老人ホームを始めたばかりで、日々苦勞の連続でしたが、話を聞いてもらえる相手がいることに救われていました。



ある日、その方が、私にこう言いました。

「自分のことでも思うようにならんのに、ましてや人は思うようにならん。そう、気を病んじゃいかんよ」

その時、私はハッとしました。認知症の人だから、常に何も分からないわけじゃなく、ちゃんと分かることがあって、私たちと何ら変わらないことに気付いたのです。その後、私は、思い通りにならないことを表す「不如意<sup>ふにょい</sup>」という言葉<sup>ふにょい</sup>を新聞で知り、思うようにならないことがあると、「不如意」「不如意」と自分に言い聞かせていました。

## 人間力を育む

私たちには、自分だけでは、できないことがたくさんあって、周囲の力を借りる必要があることがあります。でも、人に相談したり、お願いしたりするのはわずらわしいし、お願いしても、相手が自分の思うように動いてくれないこともあります。周囲の人をお願いするより、サービスの対価として代金を支払って、解決した方が簡単かもしれません。



しかし、そうしたわずらわしいことを通じて、私たちは、人として大切なこと、例えば、「あいさつをすること」「人の話を聞くこと」「ありがとうと感謝の気持ちを伝えること」

「思いやりの気持ちを持つこと」を備えた人間力を育むことができると思います。

本市の教育大綱(教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱)は、**人間力を育み いつまでも健やかで夢と生きがいを持ち 成長できる人づくり**  
**～自然共生・地域共存・多様性の尊重～**  
を掲げています。

自然共生も、地域共存も、多様性の尊重も、大変わずらわしいことです。

「教育大綱」というと、学校教育だけに関わることと思われるかもしれませんが、社会教育、家庭教育と、年齢にかかわらず、誰にも関係することです。

自然からも、自分の思い通りにならないことがあることを学び、多様な人が暮らす地域と共存することでわすらわしいことを学ぶことが、人口が減少し、社会の有り様が大きく変わっていく、これからの時代には、必要なことだと思っています。

～市長の話を聞いて～

私の住んでいる地域で、4月から5人くらいが集まって、「ラジオ体操を始めたいね」と話し合っています。「4月から話し合っていて、まだ始まっていないのか？」と思われる方もいらっしゃるかもしれません。私は、ラジオ体操は、毎日午前6時30分から始めるものだと思い込んでいたのですが、「そんなに早くは起きられない」「毎日行うなら、世話人の数が足りない」という意見もあって、「それなら何時に始めよう？」「何曜日なら大勢が集まれるだろうか？」となって、まだ実現していません。

一人の意見でパッと決めて、始めることは簡単ですが、その一人が参加しなくなったら、結局、ラジオ体操は続かないように思います。

「つべこべ言わずに始めればいいのに…」という意見もあるかもしれませんが、先日、「お試しでラジオ体操をやろう！」と、手分けしてビラをポスティングしたら、話し合いのメンバーのほかに8人が参加してくれました。そうやって仲間を増やししながら、時間が掛かっても、近い将来、地域で毎朝ラジオ体操ができたらいいなあと思っています。